

江南おもちゃ病院 スマイル

モノが豊富に溢れている現代。「壊れたら捨てる。そして新しく買い替える」という方も多いのではないだろうか。そんな風潮の中で今、「壊れたモノを修理して使う」というリユースの取り組みが広がっている。このリユース活動に貢献すべく誕生したのが江南おもちゃ病院スマイルだった。



尾張地区初のおもちゃ病院 手探り状態でついに開院

江南おもちゃ病院スマイルが発足したのは平成15年10月。すでに10年以上も活動を続けている。
「当時の江南市環境課職員の方から、おもちゃ病院を立ち上げたいという相談を受けたのがはじまりです」と語るのは、江南おもちゃ病院スマイル初代院長の川崎晴功さん。当時、寄木地区の区長を務めていた川崎さんは、多方面に渡り地域の奉仕活動に奔走していた人物。もちろんその提案に同感した

ものの、定年まで製菓会社の営業マンとして働いていた川崎さんには、モノを修理する知識や技術なんかなかった。
「なんとかやってみよう。」

そう決心した川崎さんは、まずメンバー集めに取り掛かった。しかし、このメンバー集めがとにかく大変だったと川崎さんは当時を振り返る。いろんな人に声をかけてみたものの、なかなか参加してくる人は現れない。おもちゃ修理の経験がない、活動時間が取れない、無償ではできないという声が多かった。そんな中、やっと5人のメンバーを



集めることができた。その中には電気工事や土木関係の仕事をしており、モノ作りや修理は得意だという頼もしいメンバーも加わった。
発足したばかりのメンバーでまず最初にしたことは、名古屋市内在り、すでに活動をしていたおもちゃ病院の視察だった。運営方法や修理技術の習得など、学ぶべきことはたくさんあった。そして発足から約1ヶ月後に行われた環境フェスタ江南で、第一回目の活動を行った。開催期間の2日間で約80件ものおもちゃの修理依頼があったというが、すべてが初めての経験で原因の究明や修理にはかなり時

間がかかったそう。しかし何より浮き彫りとなった課題は、依頼人のコミュニケーション。だったという。モノ作りは得意でも、接客の経験は少ないメンバーばかり。おもちゃを通して会話するというコミュニケーションの大切さを痛感したそうだ。

部品の有無で分かれるおもちゃの命

活動を開始して10年以上の月日が経ち、現在、江南おもちゃ病院スマイルのメンバーは21人へと増えている。メンバーの多くは定年を過ぎた60代から80代の男性だが、モノ作りが好きで、地域のために何かお手伝いができるのならと参加を決めてくれた人ばかりだという。

おもちゃ病院に持ち込まれるおもちゃは動く人形やぬいぐるみ、音の出るおもちゃ、ラジコンなど多様。故障原因も部品の故障や電気系統の接触不良、断線など様々で、基本的には受付後すぐにその場で修理し返却する。昨年の平成27年度1年間のおもちゃ修理件数は101件で、完治したものは65件、

半治14件、不治22件だった。完治できない理由の大半は部品不足だという。代用できるものを探して、できるだけ完治するよう努力をしているそうだが、部品が無ければ直すことができないのが現状だ。外国製のおもちゃの場合は特に部品の調達は困難であり、昔のレトロなおもちゃの修復はより高度な知識と技術が必要となる。
「部品さえあれば直せるのに...」
「そんなもどかしさを少しでも解消できるようにと、寄木地区の資源ごみ回収日には、おもちゃ専用箱を設置し、回収したおもちゃから部品収集を行っているという。細かい作業が多く手間がかかるこの作業はとにかく大変だというが、少しでも多くのおもちゃを無償で修理するためには欠かせない手間となる。実際、修理できたおもちゃのうち8割がこれらの回収された部品で蘇ったという。

「モノを大切に」 「おもちゃの心」を伝える

現在、江南おもちゃ病院スマイルが開院されるのは2月、8月の

自主活動のほか、毎年6月に開催される江南市マシモノフェスティバルと11月の環境フェスタが行われるとき、開催日当日にならないとだけだけの依頼があり、どんなおもちゃで、どのような修理内容になるのかわからないため、修理できるおもちゃに限りがある。
「予約制にすることができたら、もう少し多くのおもちゃを修理できるのではないかと」と川崎さん。

江南おもちゃ病院スマイルの活動は市民の中でも浸透しつつあり、子どもが気に入っているおもちゃ、特別な思い出があるおもちゃなどを持ち込む人が年々増えているという。「もし直るのであれば、修理してまた使いたい」という人が目に見えて増えてきたことを実感し、こちらもうれしくなります」と川崎さんは言う。一度壊れてしまったものが修理することでまた蘇える。捨てられていたかもしれないおもちゃが、また役割を担って生き続ける。この小さな積み重ねは人の心を満たすだけでなく、ゴミの減量化や環境保全に役立つのだ。

「思いやりのある心やモノ大切に」
「おもちゃの心」を伝える
江南おもちゃ病院スマイルの皆さんの志が、さらに多くの人に広がり、住みよいまちづくりへと発展することをこれからも期待したい。



環境フェスタでおもちゃを修理するメンバーたち



江南おもちゃ病院
スマイル
〒483-8044
江南市宮後町玉塚151
☎0587-55-6651
(現院長 川合龍司)

初代院長
川崎晴功さん